

(3) 知床連山登山道定点撮影地点の追加・見直しについて

背景

令和4年度第2回適正利用・エコツーリズムワーキンググループにおいて、登山者利用の大部分を占める岩尾別側ルートへの定点追加に関する提案があり、新規で設置する定点の検討を行った。

また、31地点ある既存の定点撮影の労力が過大になっていることから、定点の絞り込みについても検討した。

方針

(1) 新規定点選定

岩尾別側ルートにおいて、踏圧等による植生への影響が懸念される登山者の休憩地点を中心に検討する。

(2) 定点の絞り込み

定点の多い羅臼側ルートについて削減地点の検討を行うとともに、巡視に過度な負担のかかる定点について整理する。

結果

(1) 新規定点候補

踏圧による植生変化、裸地の拡幅等が懸念される、オホーツク展望、弥三吉水、仙人坂、銀冷水の4地点(表1、図1)を新規定点として設定する必要性が高い。拡幅の進行状況をモニタリングし、状況が悪化すれば対策を検討する必要がある。

(2) 削減候補(合計6地点)

① 羅臼側ルート(2地点)

羅臼温泉06、羅臼温泉07(表2、図2,3)は、流水による植生変化が顕著であり、植生変化が踏圧によるものなのか判断がつかず、調査目的に合った定点となっていない。また、巡視ルートから外れているため負担も大きい。

② 一ノ肩(1地点)

一ノ肩01(表2、図2,3)は巡視ルートから大きく外れているため、定点までの移動に時間をかけなければならず、登山道整備の時間確保が困難になっている。

③ 全景写真撮影地点(3地点)

全景写真の撮影が必要な、羅臼平野営指定地全景、三ツ峰野営指定地全景、ニッ池野営指定地全景(表2、図2,4,5)については、霧が出ると撮影が困難になる。このため、撮影ができなかった場合は後日、定点撮影のための巡視を行う必要がある、負担が非常に大きい。第一火口野営指定地全景については巡視の宿泊地が当該地であり、霧が晴れるまでの時間を確保することができるため、定点として継続的に撮影する。

表1. 岩尾別側ルート新規定点候補

地点名	現況写真 (2023年7月撮影)	選定理由
オホーツク 展望		<p>登山者の休憩地点となっており、踏圧による裸地の拡幅が懸念される。</p>
弥三吉水		<p>登山者の休憩地点となっており、踏圧による裸地の拡幅が懸念される。</p>
仙人坂		<p>登山者が岩を避けて通行した結果新たな道が作られており、今後も地形の変化を注視する必要がある。</p>

銀冷水		<p>登山者の休憩地点となっており、踏圧による裸地の拡幅が懸念される。</p>
-----	--	---

表2. 削減候補定点

No	地点名	現況写真	削減理由
6	羅臼温泉 06		<p>流水による植生変化が顕著であり、植生変化が踏圧によるものなのか判断がつかない。また、巡視ルートから外れており、登山道整備等の時間確保に影響する。</p>
7	羅臼温泉 07		<p>流水による植生変化が顕著であり、植生変化が踏圧によるものなのか判断がつかない。また、巡視ルートから外れており、登山道整備等の時間確保に影響する。</p>

12	羅白平野営 指定地全景		<p>霧が出ると撮影が困難になる。このため、撮影ができなかった場合は後日、定点撮影のための巡視を行う必要があり、非常に負担が大きい。</p>
13	一ノ肩 01		<p>巡視ルートから大きく外れているため、定点までの移動に時間をかけなければならず、登山道整備のための時間を十分に確保することができない。</p>
16	三ツ峰野営 指定地全景		<p>霧が出ると撮影が困難になる。このため、撮影ができなかった場合は後日、定点撮影のための巡視を行う必要があり、非常に負担が大きい。</p>
25	二ツ池野営 指定地全景		<p>霧が出ると撮影が困難になる。このため、撮影ができなかった場合は後日、定点撮影のための巡視を行う必要があり、非常に負担が大きい。</p>

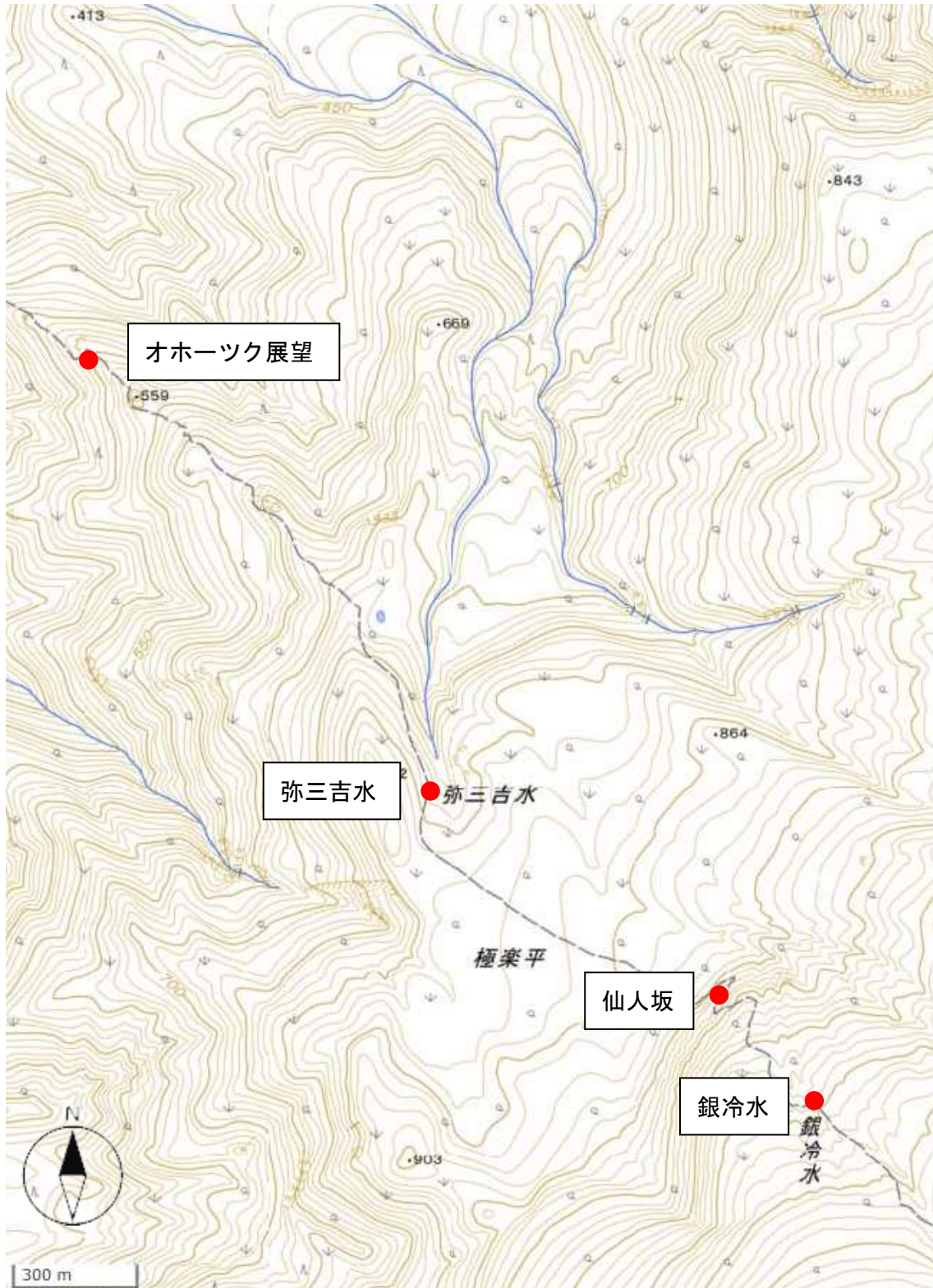


図1. 岩尾別側ルート新規定点候補位置図

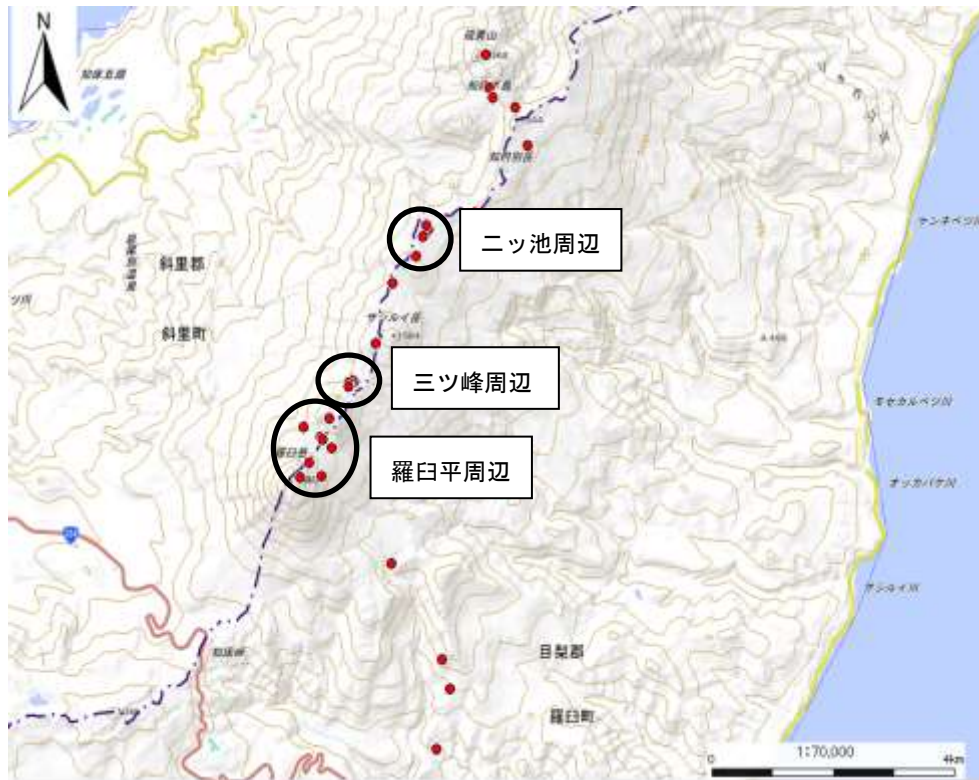


図2. 知床連山既存定点 (31 地点)



図3. 羅臼平周辺定点位置図



図4. ニッ池周辺定点位置図

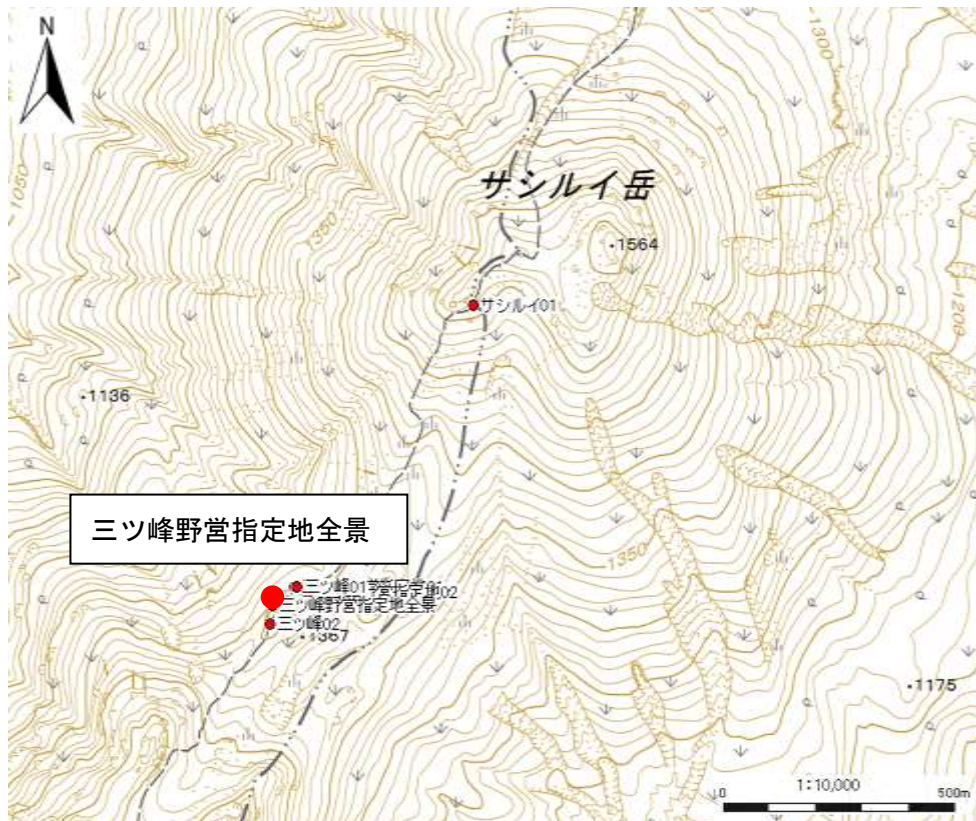


図5. 三ツ峰周辺定点位置図